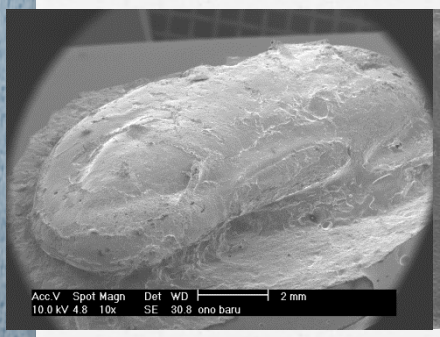
東南アジアの自然と農業研究会　第163回例会

共催：地域研究統合情報センター

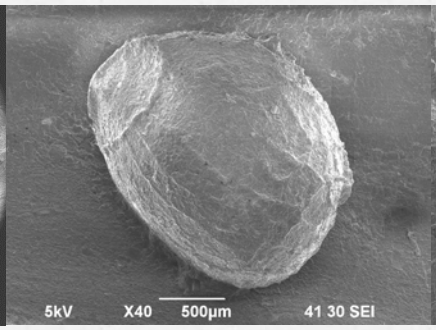
日本先史時代の栽培植物とその起源

ー最近の古民族植物学の研究成果からー

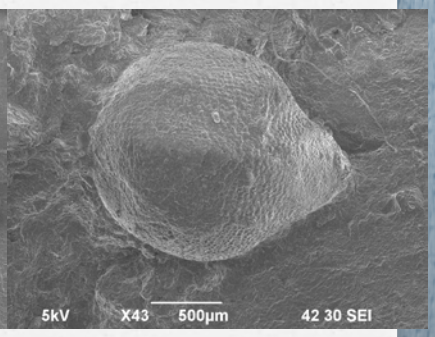
小畑　弘己　氏　（熊本大学文学部）



長崎県大野原遺跡ダイズ



鹿児島県小迫遺跡エゴマ



鹿児島県小迫遺跡アワ

2000年代以降の古民族植物学的研究、とくに縄文時代の栽培植物に関する研究は、圧痕法やAMSによる炭素年代測定法の開発、種子や花粉の同定法の発展などに伴い、大きな進歩を遂げてきた。その中でも特質すべきは、圧痕法によって、これまで弥生時代に中国大陸から伝播してきたと考えられていたアズキやダイズが縄文人たちによって栽培が開始されたことが明らかになったことである。今回は、圧痕法で明らかになった成果を中心に、縄文時代の栽培植物とその起源について紹介する－

（発表要旨より）

日時：**2013年12月13日（金）15時より**

場所：京都大学　総合研究2号館4階会議室

（AA447）

参加費・事前登録は不要です。
皆様、奮ってご参加下さい。
また、会後には懇親会を予定しております。

＜お問い合わせ先＞

廣瀬　京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
hirose@asafas.kyoto-u.ac.jp

柳澤　京都大学地域研究統合情報センター
masa@cias.kyoto-u.ac.jp